

病虫害発生予察注意報（第 1 号）

平成 19 年 6 月 26 日

茨城県病虫害防除所

ナシ黒星病が、多く発生しています

果実が感染しやすい 7 月の薬剤散布を確実に実施しましょう

作物名：ナシ

病虫害名：黒星病

〔発令の内容〕

発生量：多い

発生地域：県下全域

〔発令の根拠〕

6 月下旬現在，発病葉率及び葉での発生地点率は，平年より高い（第 1 表）。

6 月下旬現在，発病果率及び果実での発生地点率は，県西地域で平年より高い（第 2 表）。

本年は春先から本病の発生がやや多い（4 月 24 日付け発表「病虫害情報 No.2」）。
本病は，降雨により伝染するため，今後梅雨明けまでは黒星病の発生に好適な条件である。

第 1 表 葉での黒星病発生状況（6 月下旬調査）

地域 (調査地点数)	発病葉率(%)		葉での発生地点率(%)	
	本年(順位 ¹⁾)	平年 ²⁾	本年(順位)	平年
県北 (4)	1.1 (3)	0.7	75 (2)	41
県南 (6)	1.7 (1)	0.6	100 (1)	51
県西 (9)	0.9 (1)	0.0	56 (1)	5
全県(19)	1.2 (1)	0.3	74 (1)	28

1) 過去 10 年間における本年値の順位を示す。

2) 1997～2006 年までの平均値。

第 2 表 果実での黒星病発生状況（6 月下旬調査）

地域 (調査地点数)	発病果率(%)		果実での発生地点率(%)	
	本年(順位 ¹⁾)	平年 ²⁾	本年(順位)	平年
県北 (4)	0.1 (10)	0.5	25 (8)	45
県南 (6)	0.1 (5)	0.2	33 (2)	16
県西 (7)	0.1 (1)	0.0	43 (1)	6
全県(17)	0.1 (7)	0.2	35 (1)	17

1) 過去 10 年間における本年値の順位を示す。

2) 1997～2006 年までの平均値。

[防除対策]

発病した葉及び果実は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める。発病部位を除去後、圃場での発病状況に応じて以下を参考に、確実に防除を行う。なお、果実肥大最盛期は「幸水」果実への感染が特に盛んになるため、DMI 剤の散布を必ず実施する。

- a) 発病が特に多い圃場では、防除暦で7月中旬に記載されているアンビルフロアブルを7月上旬に散布し、その後7月中旬にストロビードライフロアブルを散布する。
- b) 発病が平年並の圃場では、防除暦に基づき、7月上旬にストロビードライフロアブルを、7月中旬にアンビルフロアブルを散布する。

薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安にし、かけむらのないよう丁寧に散布する。なお防除は、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意して行う。

薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌出現回避のため、DMI（EBI）剤の年間使用回数は原則3回以内に抑えることが望ましい。

農薬を使用する際は、農薬ラベル記載の使用方法、注意事項を確認のうえ使用する。